

# カンボジアの孤児院で 対等な付き合いを痛感

「国際交流が現地ではどのように行われているかをこの目で確かめてみたかったです」

カンボジアの孤児院の支援をしているNGO（非政府間機関）「ハート・オブ・ゴールド」（岡山市西辛川）のスタディーツアーに参加、同国の孤児院で約二週間、ボランティア活動をしたノートルダム清心女子大四年三宅美香さん（22）＝写真左＝（同市中畦）はひとみを輝かす。

二月に学校の講義の一環

で現地を訪れ、貧しいながらも力強く生き抜いている「もつとカンボジアを知りたい」との一心で、再び現地に飛んだ。

孤児院では、子供たちと寝食を共にしながら、リーダーを教えたり、ダンスを披露し合ったりして交流を深めた。物を送ればいいというような援助の姿勢に疑問を呈し、「相手の立場を考え、対等な立場で付き合い合うことが必要だと思う」。

秋の学園祭シーズンでは、国際交流をテーマにしたイベントを企画している中学、高校に赴き、自らの体験を伝える。今は、その打ち合わせに忙しい日々を過ごしている。「人との出会いが私の宝物。これからもいろんな国に行って、世界を広げたいです」



ひと岡山